

入野小学校 校長室だより

2016. 2. 12(金) No. 37 文責：芝

友だちの一生懸命を見る目

3年生の男の子が職員室に来て、「とび箱の発表会をするので、見に来てください。」

と、体育の時間への招待をしてくれました。数日後の5校時だとのこと。ありがたく行く約束をしたことでした。

その日、体育館に行って見たことは、最初から最後まで子どもたちの成長を感じるだけでした。

まず、準備。子どもたちは先生が示した配置図を確認しながら、自分たちでとび箱やマットなどを準備していきます。もちろん、準備には大人も加わっていましたが、子どもたちの動きを見てみると、「まったく大人の指示を受けずに準備をしている」と見えるほど、準備内容を理解して、自主的に動いていると感じました。そういう姿を見ると、その先にもどんどん期待が高まります。

とび箱発表会が始まりました。準備を見た時の期待通り、子どもたちは一生懸命に技を披露してくれました。みんなが一緒になって一生懸命に頑張る姿は、本当に感動を呼びます。素晴らしいことです。加えて、私はそれ



以上に友だちの技を見ている子どもたちの姿と態度にも感動しました。「自分のことには一生懸命、でも友だちの一生懸命には無関心」、子どもに限らず、大人でも陥りがちなことです。でも、この日の発表会は「自分のこと・友だちのこと」とともに、みんなの気持ちがひとつに向かっていたように感じました。そして、片づけもやはり見事でした。

3年生の大きな成長を感じた「とび箱発表会」、うれしさと頼もしさを感じたことでした。

新しい伝統が始まった日

生徒指導担当から11月上旬にひとつの呼びかけがありました。「くつ箱に入れる時には、くつを手前のラインにそろえよう。みんながそろうときれいに見える」ということでした。

「学校内の整理整頓を進めたい」という思いからの提案です。その取組の先頭を切ったのは6年生で、みんなの手本になろうと早々に開始してくれました。やはり、何気なく入れるのとは大違いで、みんながそろうときれいに見えます。この取組がもとになって、校内の整理整頓に対する気持ちが向上してくれれば嬉しいことです。

それから4ヶ月近くたちますが、この件は「学校のみなが」と言うには、もう一息のところでは、意識・気持ちの面では定着しつつあります。そんな子どもたちの心がうかがえるエピソードです。

ある日の下校時、子どもたちのほとんどが校舎を出た頃に5年生のくつ箱の前を通りかかると、女子の上履きのかかどが見事に一直線にそろっています。思わず「上履きがそろうちょう」とつぶやくと、児童玄関に向けて歩きかけていた男子の中の一人が、くると身体向きを180度変え、5年生の男子全員の上履きを一直線にそろえ、何事も無かったかのように帰って行きました。

入野小の新たな伝統になる日も近そうです。